

和語多義語動詞の意味推測に関する考察

— 中国人上級日本語学習者を対象に —

Inferring Unknown Words of Japanese origin Polysemous Verbs:
Focusing on Chinese Advanced Learners of the Japanese Language

麻 生 迪 子

Michiko ASO

【要旨】

本研究は、上級中国人日本語学習者を対象に未知の和語多義語語義の意味推測について検討を行ったものである。23語を対象語とし、42の語義から実験文42文を作成した。調査協力者に対象語義の意味を推測させる「意味推測課題」と意味推測のしやすさを問う「意味推測難易度課題」の2つを実施した。その結果、中国人日本語学習者にとって意味推測が容易な語義として、12語義が挙げられた。12語義が推測容易語義となったのは、調査協力者にとって「既知語義」であったり、「文の手がかりのみで推測が可能」であったためである。一方、推測困難語義として24語義が抽出された。24語義が推測困難であったのは、「語義をあやまって理解していたこと」や「ひらがなの音から異なる漢字をあてはめ、誤った意味推測」をしてしまったことが原因であったと考えられる。なお、6語義は推測の容易さについて明確な特徴がみられなかった。本調査の結果は日本語教育に対して、二つの示唆を与える。一つは、中国人日本語学習者は、ひらがなで表記された未知の語義に出会うと、既知の漢字知識を用いて意味推測を行う。そのため、同音異字語、同音異義語については、学習者が注意を払えるように十分に指導する必要があることである。今一つは、未知語及び未知の語義の意味推測ストラテジーの指導の重要性である。文レベルの手がかりを用いた意味推測は失敗に終わる可能性もあるので、推測した意味を固定せずに、未知語が使用された前後の意味を踏まえながら意味推測を行うという指導をする必要があることである。

【キーワード】 意味推測 和語多義語 中国人上級日本語学習者 付随的語彙学習

1. はじめに

第二言語（以下、L2）能力を向上させるためには、L2語彙知識の向上が不可欠である。L2語彙学習方法は、大きくは意図的語彙学習と付随的語彙学習に分けられる。意図的語彙学習（Intentional learning）とは、学習者が意図的に特定の語や語のグループについて学ぼうとしている状態の学習を指し、付随的語彙学習（Incidental learning）とは、テキスト内容理解やメッセージの伝達といった語彙学習が目的ではない活動中に生じる学習である（Nation & Webb, 2011）。意図的語彙学習の例としては、単語リストを配布し、その意味を学習者が学んでいくという学習形態を挙げることができる。対して、付随的語彙学習の例として、単語を覚える意図なく、

内容理解を目的とした多読といった L2 読解文を読む中で未知語の意味を推測し、その語を覚えていく、という学習例をあげることができる。このような定義で日本語教育の活動を見た場合、初級の場合、意図的語彙学習が中心で、中級上級になるに従い、付随的語彙学習が中心になっていくと言える。初級段階は、語彙リストの配布を受けて語彙を学んでいくが、中級上級になると、各課の語彙学習だけでなく、日常生活などの中から語彙を学んでいく割合も語彙が無数にあることを考えると、付随的語彙学習が語彙知識の向上に大きな役割を果たしていることは言うまでもない。しかし、全ての語が付随的語彙学習で学ぶことが可能かと言うとそうは言えないだろう。付随的語彙学習で適切に学習することが困難な語として、多義語が挙げられる。多義語とは、「同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結びついている語」である（国廣，1997: 97）。多義語がなぜ付随的語彙学習で学習が困難なのかというと、学習者が多義語の一つの語義を知っている場合、未知の語義を既知語義だとみなし、正しい意味を調べないまま読解を読み進めていることが指摘されている（Laufer, 1989）ためである。つまり、多義語の既知の語義が障害となり、未知の語義の推測を妨げているのである。学習者の語彙知識を向上させるためには、このような問題を改善し、効果的に多義語を付随的語彙学習にて学習させる指導法について検討する必要があるだろう。本研究は、このような問題意識を持ち、中国人日本語学習者の未知の多義語の意味推測について検討を行う。本研究の知見は、中国人日本語学習者に対する効果的な付随的語彙学習方法の開発の一助となることを目指す。

2. 先行研究

L2 未知語の意味推測に関する先行研究（Bengelei & Paribakht, 2004）によると、意味推測に用いられる知識は二つに大別される。一つは、言語的な知識であり、今一つは言語外の知識である。前者の言語的な知識とは、学習者の母語（以下、L1）や L2 の知識に基づくものであり、後者の言語外の知識とは未知語が使用される文章の知識や学習者の持っている世界知識である。Paribakht & Weshe（2015）が分類した言語的な手がかりを挙げると、対象語からの連想や対象語との共起語、対象語のある文の意味、句読点などがある。また、言語外の知識を Paribakht & Weshe（2015）は学習者が持つ知識や常識としている。

このような枠組みをふまえて、中国人日本語学習者の未知語意味推測ストラテジーの特徴について検討した研究として、山方（2008）がある。山方（2008）は、中国人日本語学習者と韓国人日本語学習者を対象に読解文の理解における未知語の意味推測及びその際に使用する推測知識源について、L2 習熟度と読解文理解、母語背景の観点から考察を行った。その結果、L2 習熟度が高い調査協力者は様々な推測知識源を利用し、未知語を正しく意味推測していることが示された。読解文の内容理解と意味推測の正確さには相関がなかったものの、読解文の内容を正しく理解しているほど意味推測が成功するという傾向が見られた。また、母語別に検討すると、中国人日本語学習者は未知語に関する語彙知識を活用して意味推測を行うのに対して、韓国語母語話者は語彙知識のみならず、文法知識を活用して意味推測を行うことが示された。山方（2008）は、調査協力者の母語と日本語の類似性と差異が意味推測の知識利用の違いが生じたと考察している。山方（2008）の研究は、学習者の L2 習熟度が推測の可否に影響を与え

ていることと、中国人日本語学習者の未知語の意味推測の可否には、語彙知識が影響を与えていることを示唆する。また、学習者の母語によって多用される推測ストラテジーが異なることが示されている。中国人日本語学習者に焦点を当てた場合、中国語と日本語の間には、「漢字」が共通しているため、母語知識を利用することが意味推測に有効であると中国人学習者に認識されていることが窺える。このような背景もあり、中国語母語話者を対象とした意味推測研究は、推測対象となる語の特性に着目した研究が多い。とりわけ、未知の漢字語彙を考察対象とした研究が多い（崔，2017 など）。これらの研究は、中国人母語話者が未知の漢語に対してどのような推測ストラテジーを用いているのか、それは漢語のタイプによって異なるのか、などの観点から考察を行っている。これらの知見は、中国人日本語学習者の付随的語彙学習方法を考える上で有効であると考えられる。しかし、漢字語彙以外の語を対象とした研究はそれほど多くない。未知の外來語や和製英語を意味推測対象とした研究（劉，2021，呉，2020 など）が近年発表されているが、その数は漢字語彙を対象とした研究の量に比べると多くないと言える。

3. 研究課題

中国人母語話者の意味推測研究を概観すると、漢字語彙の意味推測研究が中心を占めている。日本語では様々な語種が用いられていることを考えると、研究対象とする語種を増やす必要があるだろう。そこで、本研究は、中国人日本語学習者の付随的語彙学習方法開発の一助となるべく、和語多義語動詞を対象に以下の研究課題を設定する。

- ①和語多義語動詞のどのような語義が意味推測しやすいのだろうか
- ②和語多義語動詞のどのような語義が意味推測しにくいのだろうか。

これらの研究課題を解明するために、2つの質問紙調査を実施する。一つは、「意味推測課題」である。この調査は、調査協力者に実験対象語義の意味を推測させることで、推測の可否を測定するものである。今一つの調査は、「意味推測難易度課題」である。この課題は、意味推測課題の回答を見て、その上で語義の推測しやすさを判定していくものである。調査協力者から見て意味推測が容易だと考えられる語義であれば、付随的語彙学習での学習が容易であろう。しかし、調査協力者から見て意味推測が困難であると認識されている語義であれば、付随的語彙学習の実行が困難であると予測される。

4. 実験手続き

4.1 調査対象者

調査に先立ち、資料1のフェイスシートを実施し、学習者の情報を集めた。うち、日本語能力試験N1取得者29名（平均21.5歳、日本語学習歴平均2.98年）を調査対象者とした。調査は、中国浙江省のA大学とB大学で行った。

4.2 語彙選定

語彙の選定にあたっては、調査協力者がその意味を知らない語、つまり、未知語である必要がある。本研究の調査協力者は、日本語能力試験 N1 レベル（以下、N1 レベル）の中国人日本語学習者であるため、N1 レベルの日本語学習者が未知である可能性の語を選定しなければならない。そこで、日本語語彙のレベルを初級（前半・後半）・中級（前半・後半）・上級（前半・後半）と 6 つのレベルに分けている日本語教育語彙表 (<http://jisho.jp.org/p1.html>) にて、次の条件を満たす和語動詞を検索した。

- ①上級（前半・後半）レベルである
- ②語義が 4 つある
- ③漢字 1 字と名詞で表記される

①の条件は、調査協力者の日本語習熟度が N1 レベルであるため、上級の語彙であるならば、未知である可能性が高いと考えたため設定した。②の条件は、本研究は多義語を対象にしているために設定したものである。対象語の保有している語義数を統一するために設定した。③の条件は、先行研究から漢字の知識が意味推測に付与することが示されている。そのため、使用する漢字数を統一するために設定した。なお、漢字表記のレベルは、N1 から N2N3 レベルにしている。さらに、母語知識の利用条件を統一するために、中国語に類似表現がないか確認した。具体的には研究協力者に辞書に記載された 4 つの語義の例文を中国語に訳してもらい、中国語で同じ漢字を使うかどうか、または、中国語に当該表現と類似した表現がないか、確認した。研究協力者と相談し、多義語の意味を容易に意味推測ができないと確認された語義を有している 23 語を調査対象語に選定した。表 2 に示す。

表 2 調査対象語候補

操る, 改まる, 構える, 砕ける, 狂う, 凝る, 退ける, 澄ます, 耐える, 漂う, 断つ, 垂れる, 連なる, 濁る, 練る, 丸める, 巡る, 漏れる, 緩む, 閉ざす, 塞ぐ, 伏せる, 連ねる

日本語教育語彙表の語義例文を参考にし、N5 ～ N2 レベルの語彙を用いて実験文を作成した。実験文作成に際しては、谷内・小森（2009）の記述を参考に単文にて実験文を作成した。漢字表記による学習者の推測を避けるために、ひらがな表記にした。調査対象語には下線を引いた。「めぐる・ゆるむ・くろう・たえる・かまえる・しりぞける・まるめる・もれる・こる・たれる・くだける・すます・とごす・ねる」の計 14 語は中国語に同様の表現がない意義を複数有していたため実験文が複数作成された。

表3 実験文一覧

- ① かのじょ にほんご えいご 彼女は日本語と英語をあやつることができる。
- ② むかし くに こつきょう 昔あの国は国境をとどしていた。
- ③ かれ たいど はな たいど 彼はいつもあらたまった態度で話す。(態度⇒态度)
- ④ じばん 地盤がゆるんでいるそうだ。(地盤⇒地盘)
- ⑤ かれ にほん だいひょうせんしゆだん せんしゆ だん 彼は日本の代表選手団からもれた。(選手⇒选手, 団⇒群)
- ⑥ かれ せんげつ えき まえ じぶん みせ 彼は、先月、駅の前に自分の店をかまえた。
- ⑦ あたらし し なまえ 新しい市の名前をめぐってゆれている
- ⑧ たたか こころ たたか 戦う心がくだけた。(戦う⇒戦)
- ⑨ ちい すうじ 小さな数字をまるめる。
- ⑩ とけい この時計はくるっている。
- ⑪ ねんまえ せいふ こくみん じょうほう じょうほう 20年前、政府は国民に情報をふせていた。(情報⇒信息)
- ⑫ つ 釣りにこる。
- ⑬ かのじょ さいきん 彼女は、最近ふさいでいる。
- ⑭ かお すわ すました顔で座っている。
- ⑮ しゃちょう かちょう しゅちょう しゅちょう 社長は課長の主張をしりぞけた。(主張⇒主張)
- ⑯ そつぎょうしき 卒業式につらなる。
- ⑰ いえ そと しやう せいひん せいひん 家の外での使用にたえる製品 (製品⇒产品)
- ⑱ にほん しじょう しじょう 日本は市場をとどしている。(市場⇒市场)
- ⑲ たたか しせい たたか しせい 戦いの姿勢をかまえる。(戦い⇒战斗, 姿勢⇒姿勢)
- ⑳ くつ 靴のひもがゆるむ。(靴のひも⇒鞋带)
- ㉑ きょう かいぎ ふんいき おこな ふんいき 今日の会議はくだけた雰囲気で行われた。(雰囲気⇒气氛)
- ㉒ しろ もり うつく 城をめぐる森が美しい。
- ㉓ つく たてもの こった作りの建物。
- ㉔ しゃちょう たなかし ぶちょう ちい 社長は田中氏を部長の地位からしりぞけた。
- ㉕ あたま 頭をまるめる。
- ㉖ みみ 耳をすます。
- ㉗ かんしょう かんしょう 鑑賞にたえる (鑑賞⇒观赏)
- ㉘ さけ 酒をたつ。
- ㉙ アイディアをねる。(アイディア⇒主意)
- ㉚ おも ふんいき ふんいき 重い雰囲気がただよう。(雰囲気⇒气氛)
- ㉛ え いろ つか ほう この絵にはにごった色を使わない方がいい。

- ③②水がたれる。
 ③③あまりかまえずかんがに考えてください。
 ③④雨で試合の予定がくるってしまった。
 ③⑤肩がこる。
 ③⑥便をたれる。
 ③⑦彼は優秀賞候補者に名前をつらねた。(優秀賞⇒优胜奖, 候補⇒候补)
 ③⑧ため息がもれる。(ため息⇒叹气)
 ③⑨白い粉をねる。
 ③⑩季節はめぐる。
 ④①彼はテレビゲームにくるっている。
 ④②いらぬ紙をまるめる。

4.3 調査手順

調査は、最初にフェイスシートの記入、記入後各自のペースで課題に取り組んでもらった。最初に「意味推測課題」を実施した。意味推測課題は、例の表に実験文を提示し、その意味を推測してもらうというものである。中国語で調査協力者が推測した意味を中国語で記述してもらった。加えて、「どうしてそのように推測したのか」という推測理由についても問うており、こちらでも中国語で推測理由について記述してもらった。

【意味推測課題】の一部

次の文の下線の意味を推測してください。どうしてそのように思ったのかについても（ ）に書いてください。理由がないときは、「なんとなくそう思った」と書いてもかまいません。なお、下線の単語の意味を知っていた時は、「知っていた」と書いてください。

なお、これらの問題はテストではありませんので、答えたことが成績などに影響を与えません。正直に書いてください。中国語で意味を書いてください。

请猜测下文中划线部分词语的含义。并在（ ）中写明这样猜测的理由。没有特别的理由的话，也可以填写“感觉应该是这样”。如果已经知道划线部分词语的含义，请填写“已知”。

另外，此份问卷并非测试，回答结果不会影响成绩。请按照实际情况回答。

- (1) 彼女は日本語と英語をあやつることができる。

「あやつる」的意思为：_____

为什么这么认为？请写明猜测的理由。。

意味推測課題が終了したところで、意味推測課題の答えを配布し、当該語の意味推測のしやすさについて判定してもらう意味推測難易度測定課題を実施した。意味推測難易度測定課題では、以下のように4段階で推測の容易さを測定した。1の評価が「とても難しい」で最も意味推測が難しいと判断され、4の評価が「とても簡単」で最も意味推測がしやすいと判断される。

【意味推測難易度課題】の一部

下線の単語には、次の意味があります。

下線の単語の意味を見て、その意味を知らない人は、意味を推測するのがどれくらい難しいと思いますか。4段階評価をしてください。

请看一下划线部分词语的含义，如果是不知道该含义的人，您觉得要推测出其含义有多难？请按4个级别评价其难易程度。

(1) 彼女は日本語と英語をあやつることができる。

「あやつる」的意思为：可以熟练使用语言

你认为如果是不了解「あやつる」含义的人，要猜出「あやつる」的意思有多难？

1	2	3	4
很难	有点难	简单	非常简单

意味時間はそれぞれ意味推測課題に40分程度、意味推測難易度課題に15分程度要した。

5. 調査結果

2つの調査結果を、表4にまとめた。まず、意味推測課題の結果から述べる。意味推測課題では、調査協力者が対象語義の意味を中国語で記述することが求められていた。集計に際し、中国語の意味記述を研究協力者1名に日本語に翻訳するよう依頼した。研究協力者の翻訳を調査者が当該語の意味だと判定した場合は、1点、当該語の類似した意味が書かれていると判定した場合は、0.5点、当該語とは全く異なる語の意味だと判定した場合は、0点とした。

表4をみると、調査協力者29名が全員推測できた語義（「①あやつる」「②めぐる」「⑦たえる」）がある一方、調査協力者全員が推測できなかった語義（「③たれる」）もあった。さらに、同じ語形であっても語義が異なると、推測得点の平均点が大きく異なるものもあった。（「④ゆるむ」と「⑩ゆるむ」, 「⑦めぐる」, 「②めぐる」「④めぐる」）。全員推測ができた語義は、推測しやすい語義もしくは、調査対象者にとって既知の語義であった可能性がある。次に、推測容易性判についての結果を述べる。表3の結果から、最も推測がしやすいと判断されたものは「②めぐる」（意味推測難易度：3.45）であるとわかる。逆に、最も推測が難しいと調査協力者に判断されたものは、「⑧たつ」「②とぎす」（それぞれの意味推測難易度：1.48）である。また、意味推測課題の結果と同様に、同じ語形であっても語義によって推測難易度が異なる語もあった。（例：「⑩ゆるむ」「④ゆるむ」等）

表4 意味推測課題と推測難易度課題の結果一覧

対象語	推測得点 合計	推測平均	意味推測 課題標準 偏差	推測難易 度平均	推測難易度 課題標準偏 差	調査協力者 数
①あやつる	29	1	0	2.9	0.9	29
②とざす	8	0.28	0.43	1.48	0.509	29
③あらたまる	11	0.38	0.49	1.97	0.778	29
④ゆるむ	10	0.34	0.48	2.03	0.778	29
⑤もれる	11.50	0.40	0.47	2.31	0.93	29
⑥かまえる	19	0.66	0.48	2.52	0.829	29
⑦めぐる	23	0.79	0.41	3.17	0.805	29
⑧くだける	13	0.45	0.51	2.28	0.797	29
⑨まるめる	2	0.07	0.22	1.52	0.738	29
⑩くるう	15	0.52	0.51	2.41	0.946	29
⑪ふせる	11	0.38	0.49	2.41	0.946	29
⑫こる	11	0.38	0.49	2.41	0.946	29
⑬ふさぐ	10	0.34	0.48	2.31	0.806	29
⑭すます	2	0.07	0.26	1.76	0.689	29
⑮しりぞける	9.50	0.33	0.47	2.55	0.783	29
⑯つらなる	8	0.28	0.46	2.17	0.805	29
⑰たえる	24	0.83	0.38	2.69	0.712	29
⑱とざす	7	0.24	0.44	1.83	0.848	29
⑲かまえる	28	0.97	0.19	3.03	0.823	29
⑳ゆるむ	25	0.86	0.35	3.17	0.966	29
㉑くだける	6	0.21	0.41	2.03	0.778	29
㉒めぐる	29	1	0	3.45	0.736	29
㉓こる	7	0.24	0.41	2.17	0.848	29
㉔しりぞける	20	0.69	0.47	2.69	0.93	29
㉕まるめる	1.50	0.05	0.20	1.72	0.702	29
㉖すます	18.50	0.64	0.48	2.17	0.805	29
㉗たえる	29	1	0	3.1	0.9	29
㉘たつ	3	0.10	0.31	1.48	0.634	29
㉙ねる	9	0.31	0.47	1.9	0.86	29
㉚ただよう	23	0.79	0.41	2.52	0.785	29
㉛にごる	14	0.48	0.51	2.24	0.636	29
㉜たれる	14	0.48	0.51	2.41	0.733	29
㉝かまえる	5	0.17	0.38	2.17	0.759	29
㉞くるう	27	0.93	0.26	2.38	0.622	29
㉟こる	14	0.48	0.49	2.31	0.85	29
㊱たれる	0	0	0	1.93	0.704	29
㊲つらねる	3	0.10	0.31	2.07	0.753	29
㊳もれる	15	0.52	0.51	2.45	0.87	29
㊴ねる	5.50	0.19	0.34	2.14	0.789	29
㊵めぐる	18	0.62	0.48	2.72	0.797	29
㊶くるう	25.50	0.88	0.32	3.14	0.743	29
㊷まるめる	14	0.48	0.51	2.59	0.907	29

以上、2つの調査の結果を述べたが、意味推測課題の得点が高く、推測難易度の評価値が低いものが学習者にとって推測が容易な語義であると言える。本研究は、意味推測課題の得点の高低を分ける基準点を類義語の推測ができるか否かの0.5点とする。また、推測難易度については、調査用紙のスケール上中間に位置し、四捨五入をすると、「簡単=3」となる2.5を基準値とする。これらの基準点と基準値にて表4を整理すると表5と表6ようになる。

表5 推測容易語義

推測得点の平均が0.5以上の語義群	①あやつる, ②めぐる, ⑦たえる, ⑨かまえる, ⑩くるう, ⑪くるう, ⑫たえる, ⑬めぐる, ⑭ただよう, ⑮しりぞける, ⑯かまえる, ⑰すます, ⑱めぐる, ⑲くるう, ⑳もれる
推測困難度が2.5以上の語義群	②めぐる, ⑦めぐる, ⑩ゆるむ, ⑪くるう, ⑫たえる, ⑬かまえる, ⑰あやつる, ⑱めぐる, ⑲たえる, ⑳しりぞける, ㉑まるめる, ㉒しりぞける, ㉓かまえる, ㉔ただよう
推測得点の平均が0.5以上かつ、推測困難度が2.5以上の語義	①あやつる, ②めぐる, ⑦たえる, ⑨かまえる, ⑪くるう, ⑫ゆるむ, ⑬たえる, ⑭めぐる, ⑱ただよう, ⑲しりぞける, ⑳かまえる, ㉑めぐる

表6 推測困難語

推測得点の平均が0.5未満の語義群	③たれる, ⑤まるめる, ⑥まるめる, ⑭すます, ⑲たつ, ㉑つらねる, ㉒かまえる, ㉓ねる, ㉔くだける, ㉕とぎす, ㉖こる, ㉗とぎす, ㉘つらなる, ㉙ねる, ㉚しりぞける, ㉛ゆるむ, ㉜ふさぐ, ㉝あらたまる, ㉞ふせる, ㉟こる, ㊱もれる, ㊲くだける, ㊳にごる, ㊴たれる, ㊵まるめる, ㊶こる
推測困難度が2.5未満の語義群	㉗とぎす, ㉘たつ, ㉙まるめる, ㉚まるめる, ㉛すます, ㉜とぎす, ㉝ねる, ㉞たれる, ㉟あらたまる, ㊱ゆるむ, ㊲くだける, ㊳つらねる, ㊴ねる, ㊵つらなる, ㊶こる, ㊷すます, ㊸かまえる, ㊹にごる, ㊺くだける, ㊻もれる, ㊼ふさぐ, ㊽こる, ㊾くるう, ㊿くるう, ㊿ふせる, ㊿こる, ㊿たれる, ㊿もれる
推測得点の平均が0.5未満、かつ推測困難度が2.5未満の語義群	㉗とぎす, ㉘たつ, ㉙まるめる, ㉛すます, ㉜とぎす, ㉝ねる, ㉞たれる, ㉟あらたまる, ㊱ゆるむ, ㊲くだける, ㊳つらねる, ㊴ねる, ㊵つらなる, ㊶こる, ㊸かまえる, ㊹にごる, ㊺くだける, ㊻もれる, ㊼ふさぐ, ㊽こる, ㊿ふせる, ㊿こる, ㊿たれる, ㊿まるめる

6. 考察

上記の結果から考察を行う。研究課題1の答えとして、表5に挙げられた、①あやつる, ②めぐる, ⑦たえる, ⑨かまえる, ⑪くるう, ⑫ゆるむ, ⑬たえる, ⑭めぐる, ⑱ただよう, ⑲しりぞける, ⑳かまえる, ㉑めぐる といった12語を推測容易語義としてみなすことができる。さらに、意味推測課題における推測理由の記述をKHコーダーにかけて整理を行うと、「知っていた」「なんとなく」「推測」という言葉が最も多く抽出された。12語が推測容易語義とな

ったのは、既知語義である可能性が高く、同時に、「なんとなく」という言葉が示すように対象語義から共起する名詞からの当て推量でも推測しやすかったためと言える。対象語義と共起する名詞からの当て推量で正しい語義が連想できるということは、当該語義が示す意味が共起名詞と共起頻度が高かったり、ひらがなの音から漢字を連想し、漢字から正しい意味を導き出しやすかった可能性がある。例えば、推測理由について、以下の記述がみられた。

- (1) 靴ひもに合う言葉はゆるむ (⑳靴くつのひもがゆるむ。の推測理由として)
- (2) 動詞は言語の前に置いている、最後はできる、これはこの言語が使えるということだと思
います。(㉑彼女かのじよは日本語にほんごと英語えいごをあやつることができる。の推測理由として)
- (3) たえる = 耐えるから推測 (㉒家いえの外そとでの使用しようにたえる製品せいひんの推測理由として)

推測理由(1)と(2)は、文で共起する名詞から当該語の意味を推測している。そして、(3)は音から正しい漢字表記を導き、漢字の意味から当該語の意味を推測している。

次に、研究課題2について検討を行う。表6の結果から、推測困難語義は「②とざす、⑳たつ、⑨まるめる、⑭すます、⑱とざす、⑲ねる、⑳たれる、③あらたまる、④ゆるむ、㉑くだける、⑳つらねる、⑳ねる、⑱つらなる、㉒こる、⑳かまえる、㉓にごる、⑧くだける、⑤もれる、⑬ふさぐ、⑳こる、⑪ふせる、⑫こる、⑳たれる、⑳まるめる」の24語義であると言える。このような語義が選出された理由について、意味推測課題の推測理由を基に検討をする。推測理由をKHコーダーにかけると、次の言葉が多く抽出された。「なんとなく」「分からない」「知っていた」「推測」、これらの言葉が示すことは、推測困難語義は、①調査協力者にとって未知の語義が多く含まれていたということと、②語義を誤って理解していた可能性がある、そして、③ひらがなの音から対象語義とは異なる漢字を連想し、誤った推測をしてしまう可能性がある ④対象語義と共起する名詞からの当て推量では正しい意味に辿りつけない、という4つの特徴のある語義群であると言える。例えば、次の(4)、(5)、(6)の推測理由は、ひらがな表記の音から誤った漢字を連想し、誤った意味推測を行っている。

- (4) たつ = 経つ、酒は既に三度回っているとの意味だと思ひます。(㉔酒さけをたつ。の推測理由として)
- (5) 酒を立つ = 酒を勧める (㉔酒さけをたつ。の推測理由として)
- (6) 通り過ぎる時に使う、とざすは通ざす (㉕昔むかしあの国くには国境こっきょうをとざしていた。の推測理由から)

(7)、(8)、(9)が示す通り、当該語彙と共起する名詞からの連想による推測が見られた。この連想には、調査協力者が持つ世界知識が関わっていると見えよう。

- (7) 酒と関係ある常用言葉 (㉔酒さけをたつ。の推測理由として)
- (8) 国境から連想することは国境を区切る (㉕昔むかしあの国くには国境こっきょうをとざしていた。の推測理由)

から)

- (9) 国の国境に対することは拡大か縮小, 拡大だと推測 (② 昔 ^{むかし}あの国は ^{くに}国境を ^{こっきょう}とど^ろしていた。
の推測理由から)

中国人日本語学習者がひらがなで単文中に提示された未知の和語多義語動詞語義の意味推測を行う場合、ひらがな音と対象語義と共起する名詞を手掛かりに意味推測を行うことが示された。この結果は、未知語がひらがなであっても漢字語をあてはめて推測をするというのは、母語知識の利用であると言える。

最後に研究課題 1 と 2 を統合し、日本語教育現場にどのような示唆を与えるか検討したい。本研究の結果から、中国人日本語学習者の未知語意味推測には、ひらがなの読みから既知の漢字を連想し、既知の漢字の意味をあてはめて理解するというストラテジーがあることがわかった。漢字知識を多分に有している上級日本語学習者には、音が同じでも漢字表記が異なることや意味が異なる、同音意義語、同音異字語があることを整理し、十分に指導する必要がある。とりわけ、中国人日本語学習者に日本語を教える教師が注意すべき点は、読みと漢字表記の結びつきのプロトタイプ性であろう。「プロトタイプ」とは、『新編 認知言語学キーワード事典』によると、「カテゴリーにおける代表的成員 (p. 323)」と説明されている。『新編 認知言語学キーワード事典』では、「プロトタイプ」は「当該カテゴリーの中で最もよい成員 (p. 323)」であり、「カテゴリーはプロトタイプを中心にした内部構造を持ち、帰属において句配を持った成員が放射状に配列されるモデル (放射状カテゴリー) を描くことができる (p. 323)」とも記述している。この記述を本研究の結果に当てはめて、漢字指導について検討したい。本研究が取り扱った対象語義のいくつかの表記を持つ。例えば、「㊦たつ」は、「立つ、経つ、絶つ、断つ」といった複数の漢字表記を持つ。これら複数の漢字表記のうち、どの表記が「㊦たつ」の表記のプロトタイプとして認識されているのかを教師が把握し、漢字表記のプロトタイプをもとに、複数の漢字が一つのカテゴリーとして学習者に認識されるような指導法を検討することができる。このようなカテゴリー性を基にした指導法は、日本語学習者の漢字学習負担を軽減すると考えられる¹。また、中国人日本語学習者には、読解文における新出未知語はひらがな表記ではなく、漢字表記にて提出するといった配慮も必要である。第二に、未知語と共起する名詞からの連想ストラテジーである。手がかりがない場合、未知語と共起する語から連想した意味をあてはめていくことが示された。このストラテジーは成功することもあれば失敗することもある。当該語と共に使用される語からの連想ストラテジーだけに頼らず、前後の文脈を手掛かりとすることといったその他の意味推測ストラテジーと併用することを指導する必要があるだろう。田川 (2020) では、漢字系中級学習者は未知語の文字などから意味を推測できない場合、未知語の前後にある複数の手がかりをもとに意味を特定しようとすることが報告されている。これは、本調査の結果と同じである。しかし、本調査の結果から、未知語の前後の語を手掛かりに推測を行うことは、成功する場合もあれば失敗することもあることも確認された。学生への指導に際しては、前後の語を手掛かりに意味を推測し意味を固定するのではなく、田川 (2020) が主張するように、前後の文脈をふまえて意味を柔軟に修正することや文脈において

当該未知語が重要か否かを検討し、未知語の意味が文章理解に不要であれば意味推測をしない、という指導も有益だろう。

7. おわりに

本研究は、中国人上級日本語学習者を対象に多義語の意味推測について検討を行った。その結果、推測困難語と推測容易語を抽出することができた。文脈や複文と言った推測の手がかりが限られている場合、ひらがな音から当該未知語の漢字を連想することや共起する語から当該未知語の意味を連想するというストラテジーが見られた。本研究の結果は、漢字語の研究が中心であった、中国人日本語学習者の未知語意味推測ストラテジー研究において、和語多義語についての意味推測ストラテジーを明らかにするもので、新しい知見を提供したものと言える。また、上級中国人日本語学習者の推測困難語を明らかにしたことは今後の意味推測研究の発展につながる。本研究が抽出した推測困難語を用いて、読解文における未知語意味推測ストラテジーの解明を行うことが可能である。さらには、推測困難語の推測成功に影響を与える要因とは何かを明らかにすることも可能である。今後は、推測困難語を実験対象語とし、中国人日本語学習者の未知語意味推測ストラテジーについて探っていきたい。

謝辞：本研究の実施に当たり、中国嘉興学院・王軼群氏と浙江工商大学・丁之群氏に多大なるご支援を賜った。ここに深く御礼を申し上げる。

付記：本研究は、科研費 18K12436「言語適性は語彙学習ストラテジーにおいてどのような役割を果たすのか」の助成を受けてなされたものである。

注：

- 1 麻生（2018）では、多義語の意図的語彙学習の方法として、語義間の連続性や派生関係を学習者に認識させる指導法を提案している。

参考文献

- 麻生迪子（2016）「多義語派生義理解の知識源に関する考察：韓国人日本語学習者を対象に」『日本語プロフィエンス研究』(4), 96-114. 凡人社
- 麻生迪子（2018）「多義語の教材化」『語から始まる教材作り』, 215-231. くろしお出版
- 国廣哲彌（1997）『意味論の方法』大修館書店
- 呉梅（2020）「中国語を母語とする日本語学習者の複合語形式の和製英語の意味推測に関する研究——日本語の語彙知識から」『国際日本学研究論集』(12), 79-103. 明治大学
- 崔娉（2017）「日本語読解における未知漢字語彙の意味推測——中国語を母語とする日本語学習者を対象に——」『中国語話者のための日本語教育研究』(8), 32-45.
- 田川麻央（2020）「漢字系中級学習者の動的読解過程」野田尚史編『日本語学習者の読解過程』, 123-141. ココ出版
- 辻幸夫編（2013）『新編 認知言語学キーワード事典』研究社

- 劉揚 (2021) 「読解における未知外来語の意味推測に関する一考察: 中国国内の日本語学習者を対象として」『さいたま言語研究』(5), 13-28. さいたま言語研究会
- 谷内美智子・小森和子 (2009) 「第二言語の未知語の意味推測における文脈の効果——語彙的複合動詞を対象に——」『日本語教育』(142), 113-122. 日本語教育学会
- 山方純子 (2008) 「日本語学習者のテキスト理解における未知語の意味推測——L2 知識と母語背景が及ぼす影響——」『日本語教育』(139), 42-51. 日本語教育学会
- Nation, I. S., & Webb, S. A. (2011). *Researching and analyzing vocabulary*. Boston, MA: Heinle, Cengage Learning.
- Laufer, B. (1989). A factor of difficulty in vocabulary learning: Deceptive transparency. *AILA review*, 6(1), 10-20.
- Bengeleil, N., & Paribakht, T. S. (2004). L2 reading proficiency and lexical inferencing by university EFL learners. *Canadian Modern Language Review*, 61 (2), 225-250.
- Paribakht, T. S., & Wesche, M. B. (2015). L1 Influences in L2 Lexical Inferencing. In *New perspectives on transfer in second language learning* (pp. 76-106). Multilingual Matters.

